

溶けるみせ

建築が人に溶け、自然に溶ける。

植物由来のヴィーガンレザーを膜構造として取り入れた。

建築部材となったヴィーガンレザーは切り取られ、レザー小物となる。
これが各個人に行き渡り、
この建築が人の生活に「溶け込む」。

レザーが切り取られ、やがてレザーがなくなり続けると、
建物としての機能を失い壊れていく。
このとき、ヴィーガンレザーは生分解性を発揮し、
この建築が自然に「溶ける」。



1. ヴィーガンレザーとは

ヴィーガンレザーとは、動物由来の原材料を使わずにつくられた人工的な皮革を指す。
その中でも植物由来のヴィーガンレザーは、生分解性を持ち、サステナブルな素材として注目を浴びている。例えば、リンゴの皮、ぶどう、パイナップル、マンゴー、きのこからつくられる。
この建築は、このヴィーガンレザーを膜構造の膜として用いている。

2. みせについて



このみせは、建物の膜(ヴィーガンレザー)を切り取って、レザー小物をつくることのできる体験施設となっている。
中央に工房があり、その辺りには複数のカフェが併設されている。
カフェもヴィーガンレザーの膜構造となっているのだが、カフェによって使われているレザーはさまざまである。
好きな種類(どの建物のレザーを使うか)を選び、自ら建物を切り取り、小物をつくる。
複数の工程の中で建物とつながっている意識を与えている。

4. 建物の時間的な変化

建築が人に、自然に溶けていくにつれて、ヴィーガンレザーが切り取られていく。



3. ふたつの「溶ける」

この建築は、ふたつの「溶ける」から考えられている。

(1) 建築が個人に「溶け」込む

建築部材となっているヴィーガンレザーが切り取られる
↓
レザーを小物にする
↓
小物を人が生活の中で使う

建物(建物の一部が)一人ひとりの生活に「溶け」込む。

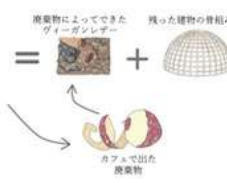


カフェの様子。カフェとして利用している人がある。
レザーを選んでいる人もいる。

(2) 建築が自然に「溶ける」

ヴィーガンレザーが切り取られ、やがて切り取る場所がなくなると、
レザーが張り替えられるが(張り替えられるレザーはこのカフェで
廃棄されるリンゴの皮、ぶどうなどを原料としたものが使われる仕組みになっ
ている。)、何度も張り替えられたのち、建物が老朽化によって壊れるとき
が来る。ここで、ヴィーガンレザーの性質である生分解性が発揮され、
解体時の環境への負荷が軽減される。

建物が生分解性によって、自然に「溶ける」。



カフェで廃棄されるリンゴの皮、
ぶどう、パイナップル、マンゴー、
きのこからヴィーガンレザーを
つくる。このレザーは、
建物のレザー膜の張り替えに使われる。